

めぐみイエス・キリスト教会

2025年8月31日(日)第五主日礼拝

午前10時より

週報「通算第773号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌315「主の御手に頼る日は」 p. 499

【交読文】 No.57 コリント人への手紙Ⅰ 13章 p. 925

【賛美Ⅱ】 新聖歌21「輝く日を仰ぐ時」 p. 28

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「み言葉に返ろう」

【聖書朗読】 ルカの福音書10章21節～24節 (p. 135上段)

【礼拝説教】 《見る目は幸い》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所

10:21 ちょうどそのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主であられる父よ、あなたをほめたたえます。あなたはこれらのことを、知恵ある者や賢い者には隠して、幼子たちに現わして下いました。そうです、父よ、これはみ心にかなったことでした。

10:22 すべてのことが、私の父から私に渡されています。子がだれであるかは、父のほかは誰も知りません。また父がだれであるかは、子と、子が父を現わそうと心に定めた者のほかは、誰も知りません。」

10:23 それからイエスは、弟子たちの方を振り向いて、彼らだけに言われた。「あなたがたが見ているものを見る目は幸いです。

10:24 あなたがたに言います。多くの預言者や王たちは、あなたがたが見ているものを見たいと願ったのに、見られず、あなたがたが聞いていることを聞きたいと願ったのに、聞けませんでした。」

●ポイント1.主イエスが弟子たちに見せられた御顔とは？

※マタイの福音書21章12節～13節「怒られた御顔」 (新約p.43)

21:12 それから、イエスは宮に入って、その中で売り買いしている者たちをみな追い出し、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒された。

21:13 そして彼らに言われた。「『私の家は祈りの家と呼ばれる』と書いてある。それなのに、おまえたちはそれを『強盗の巣』にしている。」

※ルカの福音書19章41節「涙を流された御顔」 (新約p.159)

19:41 エルサレムに近づいて、都をご覧になったイエスは、この都の為に泣いて、言われた。

※ヨハネの福音書11章35節「ラザロの墓の前で」 (新約p.206)

11:35 イエスは涙を流された。

※マタイの福音書26章37節～38節「悲しみの御顔」 (新約p.57)

26:37 そして、ペテロとゼベダイの子二人と一緒に連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。

26:38 そのとき、イエスは彼らに言われた。「私は悲しみのあまり死ぬほです。ここにいて、私と一緒に目を覚ましていなさい。」

●ポイント2.「子と、子が父を現わそうと心に定めた者」とは？

※ヨハネの福音書14章7節～11節「最後の晩餐で」 (新約p.213下段)

●ポイント3.「あなたがたが見ているものを見る目は幸いです」とは？

※ヨブ記19章27節前「ビルダデへのヨブの答えから」 (旧約p.900)

19:27 この方を私は自分自身で見る。私自身の目がこの方を見る。

◎先週のメッセージ【天に記された名前とは？】

《主イエスは、ユダヤやサマリアの町々に、新たに 72 人の弟子たちを遣わさせました。そして、約束の日数が経って、彼らは皆、主イエスの御元に戻って来ました。おそらく出発した同じ町だと思われます。

「主よ。あなたの御名を用いると、悪霊でさえ私たちに服従します。」

彼らは悪霊を追い出しただけでなく、多くの病を癒したのです。ところで、彼らはどのような御名を唱えたのでしょうか。私は、「ナザレのイエス」であると思っています。マタイは「彼はナザレ人と呼ばれる」と書き記しています。さて、報告を聞いた主イエスは、言われます。「サタンが稲妻のように天から落ちるのを、私は見ました。」と。

主イエスが、サタンに勝利するのは、十字架においてです。そして、三日目に復活された時には、サタンの最後の武器であった「死」が滅ぼされるのです。また、主の言葉は預言であって、終わりの時代に天において、戦いが起こり、ミカエルとガブリエルが率いる御使いによって、悪魔とその仲間が地上に突き落とされることになるのです。「確かに私はあなたがたに、蛇やサソリを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けました。ですから、あなたがたに害を加えるものは何一つありません。」

主のこの言葉に、私は非常に衝撃を覚えます。私たちに与えられた、主の御名を用いる権威は、本当に素晴らしい特権なのです。「しかし、霊どもがあなたがたに服従することを喜ぶのではなく、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

この言葉から、弟子たちは、面白おかしく喜んでいたことが分かります。しかし主イエスは、そんな彼らを厳しく諷められました。

ところで、主が言われた書物のことですが、それは、「子羊の命の書」のことです。この書に名前の書き記された者だけが、主イエスを信じ受け入れ、罪赦された者として、永遠の命をいただけるのです。》

◎お知らせ

※次回、9月7日第一主日礼拝は、通常通り、午前10時からです。